

中小企業診断士の視点

第60回 社内のIT人材育成は急務です



中小企業診断士 古澤 登志美
(一社)埼玉県中小企業診断協会

コロナ禍においてITの役割が急速に広がってきました。中小企業においては、デジタルツールを活用したビジネスモデルの変革（DX：デジタルトランスフォーメーション）までは難しくとも、「テレワーク」や「生産性向上」などIT活用の必要性が急速に高まっていることに、多くの経営者が気づいているはずですが。

政府も「IT導入補助金」や「中小企業デジタル化応援隊事業」等の支援策を展開しています。各種補助金や給付金なども電子申請のみで受付けるものが増加し、ITは事業運営において避けて通れない課題となっています。今後は中小企業だけでなく小規模事業者であっても、「パソコンやITは苦手」「業者に頼んでシステムを導入すれば良い」など、どこかひとつとな考え方は通用しなくなります。とはいえ、「ITやデジタルツールを社内で自在に活用し生産性向上に役立てたいが、時間も無く新たな人材を採用することもできない」など、ITに対する投資に余裕がない場合はどうすればいいのか。以下に一例を記します。

①チームを立ち上げる

まずは社内でITチームを立ち上げましょう。誰か1人を担当にしてしまうと、個に頼った取り組みになってしまいます。担当者にとっても、経営者すら把握しきれない取り組みを1人で背負うことは、孤独であることはもちろん、「適切な評価を得られるのか」といった不安も抱えてしまい、モチベーションの持続が困難になります。ITに苦手意識の少ない若手と業務全般を理解しているベテランの最低2人、できれば3人以上のチームを部署横断的に立ち上げましょう。そして、経営者はそのチームを直接ケアすることを忘れないでください。チームからの提案に責任をもって判断を下すことができるのは経営者だけです。

②社内の課題抽出

チームメンバーはいきなりITの専門的スキルを身に付けることを目指すのではなく、社内の課題を抽出するところから始めましょう。どんな課題が社内にあるのか、優先的に解決すべき課題は何か、そのためにITを活用できそうか、などの視点から課題を整理します。

③情報収集と知識習得

整理された課題のイメージを持ちながら、必要なスキルに対しての研修受講や、利用できそうなITツールを探すこと、外部の専門家のお話を聞くことなどで、より効率良く具体的な知識が習得でき、チーム全体を本質的に成長させることができます。無駄な投資を防ぐこともできるでしょう。

私ども中小企業診断士は、社内のIT人材育成についてもお手伝いすることが可能です。ITに対する知識はもちろん、経営全般についての知識、人材育成についての知識も併せ持つ中小企業診断士だからこそ、IT活用へ積極的に取り組む文化を御社に根付かせることができます。ぜひお気軽にご相談ください。

【問い合わせ先】

埼玉県中小企業診断協会

ホームページ：<https://sai-smeca.com/>

電話：048-762-3350

Eメール：rmcsai@nifty.com